

第五表 殺菌試験表(菌叢直径mm)ホルドー濃度は硫酸銅に対する倍效

経過 日数	特製ホルドー合剤				硫酸銅				硫酸亜鉛 加用ホルドー				クポイド				ウスプルン						
	四〇〇〇	八〇〇〇	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	八〇〇〇	一五〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	八〇〇〇	一五〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	八〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	
2日	-	-	-	5	-	-	6	9	-	-	-	8	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	3
4日	-	-	-	7	-	-	10	11	-	-	-	9	-	-	5	7	11	-	-	-	-	-	4
6日	-	-	-	12	-	-	16	15	-	-	-	12	-	-	16	17	23	-	-	-	-	-	10

以上の試験によると硫酸銅400倍、硫酸亜鉛加用ホルドー合剤800倍、クポイド200倍、ウスプルン10,000倍で又ホルドー合剤は1,500倍(10斗式)で完全殺菌の効果を表はしている。

## 松喰虫の一寄生蜂について

宮崎県方林務部 伊藤武夫

松喰虫の被害に対する駆除の方法としては、経済的或は実施面からみると現行の剥皮焼却法による外に適當なのがないうであるが、筆者が最近採集した資料中に数種の寄生蜂を見付けたので、従来剥皮焼却法と併行してこの寄生蜂の生活史や習性などを明らかにし、天敵利用を以て所謂松喰虫防除に役立たいと思う。本稿を草するに当り寄生蜂の鑑定を願った東京農工大学の石井梯氏に深甚の謝意を表する。

宮崎県の松喰虫被害は全国的に激甚な地域の一つであるが、昭和27年2月から3月に亘り英岡、北川、川南、門川、高鍋、木城、妻、三岐、三納、八代高岡、本庄、綾の各市町村にて被害村の調査をしたところ、数種の松喰虫と共に或種の寄生蜂を発見したので後日これらについて順次発表するに算であるが、今回は最も注目すべきキイロコキクイムシの寄生蜂について述べる事にする。

キイロコキクイムシの幼虫孔の先端部に小さい細長形の白色菌を認め、更に敏学しているとこれからコマユバ4科のハットリキクイコマユバ4に近いものが羽化して出て来たので、石井梯氏に鑑定を依頼したところ、これは南欧産の *Eophylus Caudatus Ruschka* と同一であると判定され、ハットリキクイコマユバ4の記載と明らかに異っていると報告された。形態は図示の通りで雄体の方は黒褐色乃至黒色、脚は基部共黄褐色、前伸腹節とオ一腹節は稍黄褐色を呈し、觸角は細長でほぼ体長に等しく、12-13節で基部の2節は黄褐色、残余は黒褐色で灰色微毛を僅かにつけている。頭部と胸部は黒漆で光沢がある。



翅は透明で紋縁と翅脈は褐色である。腹部は略頭胸部と等長で、産卵管を真直に伸長し産卵鞘は暗褐色で微毛に被われ其長さは腹部と等長で、体長は産卵管を除いて1.6-2.0mmである。雌体は腹部細長、オビ部以下は急細、扁平である。その背面中央には縦溝があり頭胸部の長さよりも大で体長の $\frac{3}{5}$ に達し末端には尾節附風器がある。後脚の腿節は太く紡錘形をなし黒色を帯び、体長は2-3mmである。繭はキイロコキクイの幼虫孔の先端部に形成し2.5-3.0×0.8<sup>mm</sup>あり白色半透明である。亦この寄生蜂の羽化は3月中旬に開始するようである。被害材中の寄生蜂数は別表の通りで寄生率は相当高度のものである。部分的には繭の数が1cm<sup>2</sup>に5箇着生したものが存在した。成虫は食餌を与へなくとも管瓶中で約2週間生存したのをみても適當な飼育をやれば壽命を延長させることができるであろう。

今後この寄生蜂の経過習性や発生環境等を更に研究散歩してキイロコキクイムシの天敵利用に供したいと考へている。

### 寄生率調査表

採集地	樹皮表面積	寄生蜂数	1cm <sup>2</sup> 当り寄生蜂数	樹皮表面積 頭数	備考
妻町西郡原	421.87 <sup>cm<sup>2</sup></sup>	142 <sup>匹</sup>	0.3365 <sup>匹</sup>	2.97 <sup>cm<sup>2</sup></sup>	腹巻考地内林
八代村八重尾	2.608.14	33	0.0127	78.93	松ノ下幼令
川瀬村及高橋町	1.220.20	46	0.0377	26.53	松林在地
北川村三尺谷	1.686.64	7	0.0042	240.95	松林林地



♀



♂

*Euphyllus caudatus* Ruschka